

2019年度事業報告

(2019年4月1日から2020年3月31日)

1 学術研究会、学術講演会の開催

(1) 第60回日本神経学会学術大会を下記のとおり開催した。

- ・大会長 楠 進 近畿大学医学部神経内科教授
- ・会 期 2019年5月22日(水)から5月25日(土)までの4日間
- ・場 所 大阪国際会議場 他

(2) 学術大会運営について

① 第64回学術大会大会長を選出した。

千葉大学大学院医学研究院 脳神経内科学教授 桑原 聡

② 第61回学術大会(大会長 阿部康二岡山大学医学部脳神経内科教授)について、岡山市での開催に向けて準備を進めた。

(3) 地方会開催

各地方会を次のように開催した。

なお、中国・四国地方会を除く6つの地方会は、COVID-19の感染拡散を防止する観点から、2020年3月に予定していた地方会を中止または延期した。

北海道地方会(1回)、東北地方会(1回)、関東・甲信越地方会(3回)、東海・北陸地方会(2回)、近畿地方会(2回)、中国・四国地方会(2回)、九州地方会(3回)

2 学会誌の発行

(1) 臨床神経学の発行

機関誌「臨床神経学」59巻4号～60巻3号の全てを通常号発行した。また、学術大会抄録はサプリメントとして発行した。いずれも電子ジャーナルである。

(2) 英文機関誌の発行

英文機関誌「Neurology and Clinical Neuroscience」(Volume 7, Issue 3～Volume 8, Issue 2)を、隔月ごとに電子ジャーナルで発行した。

(3) 診療ガイドライン作成

① HTLV-1関連脊髄症(HAM)診療ガイドラインを新規に発行した。

改訂版として作成してきた神経疾患の遺伝子診断ガイドライン

そして、および筋強直性ジストロフィー診療ガイドラインの作成をすすめ、2020年度出版目指して編集作業を行った。

② 重症筋無力症/ランパートイン筋無力症候群診療ガイドライン2014、慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー、多巣性運動ニューロパチー診療ガイドライン2013、ギラン・バレー症

候群、フィッシャー症候群診療ガイドライン2013、慢性頭痛診療ガイドラインの改訂版作成作業を進めた。

- ③ 新たに、ALS 診療ガイドラインおよびプリオン病感染予防ガイドラインの作成作業に着手し、プリオン病感染予防ガイドラインについては、2020年3月末に完成した。
- ④ 2017年度に出版した認知症診療ガイドライン2017およびてんかん診療ガイドライン2018の英文版作成作業を進めた。

3 啓発活動

(1) 市民公開講座を次の予定で開催する。

- ・ 第60回学術大会開催時市民公開講座を2019年5月26日(日) コングレコンベンションセンターホールA(大阪市)で開始した。
参加者数 257人

(2) 広報活動

- ① 会員向けのニュースレターを発行した(第5号)。
- ② 医学生・研修医に脳神経内科の魅力を伝えるための「脳神経内科サマーキャンプ」を沖縄会場および岐阜会場の2か所で開催した。
また、企業が主催するレジナビフェアに東京、大阪の2カ所で参加し、多数の医学生、研修医の参加を得た。
- ③ 本学会認定施設で行われる神経内科を紹介する説明会やセミナー等の企画を、本学会ホームページで紹介する事業を引き続き行った。
- ④ 医学生・研修医等若手会員向けホームページの制作に着手した。2020年度に公開する予定である。

(3) 医学生を対象とした学術大会への参加支援について

医学生を対象とした第60回学術大会への参加支援(交通費補助)を、学会が主催し実施した。

(4) 神経内科フォーラムの活動支援

昨年度に引き続き、神経内科フォーラムが企画・実施する脳神経内科と神経疾患を広報する活動を支援した。

4 研究奨励

日本神経学会賞を選考した。受賞者は、次のとおりである。

○学術研究部門

中森 雅之 大阪大学医学系研究科神経内科学

「筋強直性ジストロフィーの病態解明と治療開発」

○診療・教育部門

砂田 芳秀 川崎医科大学神経内科学

「ミトコンドリア病 MELAS の脳卒中様発作に対するタウリン療法の実用化」

山田 正仁

金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻脳老化・神経病態学（脳神経内科学）

「認知症地域コホートと認知症プロフェッショナル育成プログラムの構築と展開」

5 研究推進

(1) 将来構想の検討

将来構想委員会を中心に、「神経疾患克服に向けた研究推進の提言」の見直しなど、本学会での研究活動に関する将来構想について検討した。

(2) 産官学連携について

産官学連携による若手創薬研修会第2回「神経疾患に対する創薬トランスレーショナルリサーチを学ぶ」を開催した。参加者数は、企業、会員を合わせて55人であった。

(3) 脳神経内科領域の症例登録システムについて

脳神経内科領域の症例登録のあり方について、検討した。引き続き検討を進める。

(4) 他団体との連携協力

神経内科学・脳科学に関する研究を推進するために、日本学術会議、日本医学会、日本脳科学関連学会連合、そして関連する他学会等と連携・協力した。

6 専門医及び教育施設の認定

(1) 専門医

① 第45回専門医試験を次の日程で実施した。

・第1次試験 2019年6月8日（土）（東京大学教養学部駒場キャンパス）

・第2次試験 2019年7月13日（土）（日本都市センター会館）

新規認定者数 199人であった。

② 第25回専門医認定更新を実施した。

2019年度末 専門医数は6,086人である。

(2) 教育施設

① 施設認定制度の見直しと認定更新

イ 施設認定制度の見直し

脳神経内科領域における専攻医の研修で、地域医療への貢献を促進するため、専門医や指導医が在籍していない小規模医療施設でも研修を可能にする特別連携施設制度を設け運用を開始した。

ロ 認定更新

2020年4月1日から認定する施設認定について、認定手続き(新規及び更新)を実施した。
2019年度末認定施設数は 803施設である。

② 指導医認定

2020年4月1日から認定する指導医認定を実施した。また、2020年3月31日で認定期間が満了となる指導医の認定更新を実施した。

2019年度末指導医数は、新規認定162人、認定更新267人である。

(3) 専門医制度

① 新専門医制度に基づく脳神経内科領域における専門医育成のための研修を支援するとともに、専攻医が経験した症例を登録できるシステムの運用を開始した。

② 神経内科専門医の基本領域化については、日本内科学会に検討組織の設置を要望するなど、基本領域化に向けての活動を実施した。

また、第60回学術大会で緊急シンポジウムを実施するとともに、若手医師の意識調査のためアンケートを実施した。

7 会員を対象とした教育及び啓発活動

(1) 生涯教育講演会

① 第60回学術大会時に第16回生涯教育セミナー(レクチャー・ハンズオンセミナー)を開催した。受講者数はレクチャー958人、ハンズオン328人であった。

② Neuromuscular Conferenceとの共催でハンズオンセミナー「神経・筋生検」を実施した。受講者数は、30人であった。

③ 以下の支部で生涯教育講演会を開催した。

関東・甲信越支部、および中国・四国支部で開催した。

なお、北海道支部、東北支部東海・北陸支部、近畿支部、および九州・沖縄支部の5つの支部は、COVID-19の感染拡散を防止する観点から、地方会と同様、2020年3月に予定していた講演会を中止または延期した。

また、関東・甲信越支部では、初めて計画したハンズオンセミナーを中止した。

(2) 専門医育成教育事業

① 第60回学術大会時に、第13回専門医育成教育セミナーを開催した。受講者数は、299人であった。

② 2019年12月15日(日)に千葉県船橋会場で第14回専門医育成教育セミナーを開催した。受講者数は、82人であった。

(3) 特別教育研修会脳卒中コース（第2回）を、2019年9月15日（日）大阪市・梅田スカイビルを会場にして実施した。参加登録者数は、164人であった。

(4) 教育コンテンツ配信事業

GSK 教育事業助成制度の資金をもとに、3か年計画で動画等の配信システムを構築するとともに教育コンテンツ制作を実施した。

今年度は、最終年度であったが、2020年度も引き続き教育コンテンツ制作を進める予定である。

(5) Excellent Teacher 表彰事業の実施

学会主催の教育セミナーの講師や教育用動画制作で教育活動に貢献した会員4人を表彰した。

(6) 会員の研修支援事業の実施

国内研修 2人、海外研修（留学）5人を支援決定した。

(7) 学術大会時の教育プログラムについて

第61回学術大会時の教育プログラムを検討した。同大会で実施する予定である。

8 診療向上のための活動

(1) 診療報酬改訂への取り組み

① 2020年度（令和元年度）診療報酬改訂について内科系学会社会保険連合（内保連）と協力して要望活動を行った。

② 脳神経内科領域における遠隔医療診断の保険診療化に向けた検討を行った。

③ DPC/PSPS の不合理な分岐の是正に対する活動を行った。

(2) 新薬承認審査の促進等に関する要望活動

神経疾患患者に対する医療の質の向上を図る一環として、公知申請など未承認薬、新薬承認審査の促進に関する要望活動を積極的に行った。

9 国際協力

(1) アジア地域の神経内科医との交流を通して神経学の向上に寄与する事業を継続し、今年度

は、9月20日～22日、ミャンマー・ヤンゴンで開催された集會に4名の会員を派遣し交流を深めた。

(2) アジア諸国との連携・協力を安定的に進めるため、ASNA と覚書を取り交わした。

(3) 第60回学術大会時に、EANF シンポジウムを、本学会が主催して実施した。

10 その他の事業

(1) 災害時医療支援の充実

災害対策マニュアルの問題点と解決策について協議するため各都道府県の神経難病リエゾンとの連絡協議会を開催した。

(2) キャリア形成促進事業

脳神経内科医の医師の燃え尽き症候群の実態把握のため、会員対象にアンケート調査を行った。

11 一般社団法人としての運営

(1) 理事選挙

2020年の学術大会終了後から任期が始まる理事選出のための選挙を行った。

(2) 役職員選出のあり方に関する検討

2018年度に引き続き、役職員選出方法の見直しについて、理事会、あり方委員会およびその下におかれたWGで検討を行い、2019年5月22日の定時社員総会で役員選出細則の改正が承認された。理事選挙はこの改正後の役員選出細則により実施した。

なお、代議員選出方法については、2020年度実施に向けて会員対象に意見募集を行うなど見直し作業を行った。

(3) 日本医学会および日本医学会連合との連携

日本医学会と日本医学会連合の活動に協力し連携を進めた。